

4. 高校進学後の就学維持とドロップアウト防止

対策

- 不本意進学を減少させるための早期からの学力保障
- 職業適性や就業可能性を視野に入れたうえでの進路指導（SSWの活用、中学校での進路指導、キャリア教育の改善等）
- 高等学校進学後の就学を維持するためのサポート体制の充実（公立私立双方への手厚い教職員配置支援、学習支援サービス、学校での補充学習の保障、中学校までの支援ネットワークの継続的活用、教員への家庭状況の引き継ぎ体制の充実等）
- 中退、不登校生徒への支援

エビデンス

- 定時制高校の中退率、不登校率は高い
- 定時制高等学校不登校の改善には、電話・迎えに行く、家庭の相談・支援、教師とのふれあい、SC等の専門的指導等が有効（文部科学省「平成24年度 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」）（資料4.1）
- 生活保護世帯の児童生徒は学習支援サービスを経てなお定時制／通信制高校等への進学も多い（学習支援実施団体でのインタビュー調査）
- 授業料以外の負担（学用品、制服費、通学費、修学旅行費等）の経済負担の大きさから進学断念、中退につながるケースもある。→高校給付型奨学金により改善が期待される。給付金額の妥当性の検証が必要。私立学校進学等でより多額の経費負担を余儀なくされている場合には、給付対象外の低所得世帯への拡大も検討される必要もある。

中退率／学年	全日制	定時制	計
1年生	1.9%	24.4%	2.2%
2年生	1.3%	11.6%	1.4%
3年生	0.4%	6.0%	0.4%
4年生	—	3.2%	3.2%
単位制	1.2%	10.7%	3.0%
計	1.2%	11.5%	1.5%

↑平成24年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」より報告者作成

要保護世帯出身生徒の高校中退率は5.27%（厚生労働省調べ）

指標

- ・ 要保護・準要保護・ひとり親世帯、児童養護施設の高校生の経済的支援の受給状況（授業料無償化措置、給付奨学金、都道府県独自の助成金受給状況等）
- ・ 要保護・準要保護世帯、ひとり親世帯、児童養護施設在籍生徒等の高校進学率とともに進学先の学校の特性（全日／定時、学科・コース等）、年間欠席日数、中退率、卒業後の進学・就職状況